

ガンは増えていない！？

ガンは増えていない！？

市川治療室 No.46/1994.04

ガンは、1981年（昭和56年）に脳卒中を抜いて日本人の死亡原因の第一位になりました。

日本人の年間（1988年）死亡者数約80万人のうち4分の1（20万人）がガンによるものです。

その上、毎年あらたに34万人以上がガンにかかると推計されています。

35歳～70歳の年齢層のガンによる死亡者は死亡第二位の心臓病の三倍以上になります。このようにガンで亡くなる人は年々増えているのですが、ガンは増えていません。

下の図は10万人のうち何人がガンで死亡したかを表したものです。
（厚生省・人口動態統計から）



図の実線は粗死亡率、点線は訂正死亡率をあらわしています。

1. 粗死亡率・・・10万人のうち何人がガンで死亡したかを表わす
2. 訂正死亡率・・・ある年の人口（10万人）を構成している年齢層に、比較する年の人口（10万人）を補正して何人がガンで死亡したかを表わす

現代と一昔前では人口を構成している年齢層は次のように異なります。

1. 現代（平均寿命が約80歳）・・・老年層は増加・弱年齢層は減少傾向
2. 一昔前（平均寿命が40歳位）・・・老年層は少なく弱年齢層が多い

人口の老化が進んで老年人口が大きい現在では 昔に比べて若年者に多い病気（ガン・成人病）が増えているのは当たり前です。

当然、成人病の死亡率（粗死亡率）は昔に比べて現在の方が高くなります。

一般に死亡率と言えば祖死亡率のことです

しかし、厳密に死亡率の増減を比較する場合は、人口の老年化の度合いを補正した訂正死亡率の計算が必要です。

祖死亡率では急増しているガンは、1935年の人口構成比を現時代に当てはめて人口の老年化の度合いを補正した訂正死亡率で比較すると、微増に過ぎませんし戦後に限定して見るとむしろ漸減傾向です。

そうは言っても高年齢になるほどガンになる確率が増すことは確かです。

渡辺昌氏（国立ガンセンター研究所疫学部長）はその理由を以下のように言われています。

1. 身体の免疫機構が低下して抵抗力が弱まること
2. 細胞分裂の際に遺伝子複製を正確に行うことが難しくなること

タンパク質とビタミンCは身体の抵抗力維持・アップに ビタミンEは細胞分裂時の遺伝子複製の以上予防には欠かせません。

考えた栄養（分子栄養学）が摂取できていれば、ガンはそれほど恐くありません。
